

日本福音ルーテル教会 女性会連盟 第23期 154号

会報



総主題「共にいてくださる主を信じて」
副主題 信仰と、希望と、愛

2017. 4. 15

発行 日本福音ルーテル
教会女性会連盟
〒169-0072 東京都新宿区
大久保 1-14-14
発行者 芳賀 美江
編集者 柳井 悦子
印刷 平山印刷出版

主題聖句

「それゆえ、信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。その中で最も大いなるものは、愛である。」

コリントの信徒への手紙一 13章13節

あなたへ



信仰と希望と愛

帯広教会牧師 岡田 薫

先日、一人の兄弟（Hさん）が召されました。約10ヶ月の入院生活を経ての旅立ちでした。入院初期は、愛する妻（Mさん）をたった一人で家に残していることに対する申し訳なさと、家に帰れない寂しさや悔しさもあつて不機嫌なことも少なくありませんでした。

そのような時、妻であるMさんや周囲の人々も心穏やかに…とは行きません。どうすればHさんの心に平安が訪れ、穏やかに過ごせるようになるだろうかと知恵を出し合い、対応に工夫を加え、共に祈りました。

数か月が経った頃「私たちは離れて過ごすようになって学んだことがあります。」とMさんが言われました。そして「これまでの私たちはまるで二人で一人のように生きてきました。けれども、支え合うことと被さり合うことの違いを知らず、互いに重荷を担わせていたことに気づかされました。今、

私たちは病院と家に離れ離れに暮らしていますが、共に主に祈ることによって以前よりも親密な関係になったように思います。」とも。

お二人は互いを見つめ合うことだけでなく、一つの信仰によって結ばれ主を見上げることによって深い慰めと力を得ておられたのです。臨終に立ち合うことができなかったMさんは私に伝言を託されました。それは「Hさんあなたと結婚できて幸せでした。ありがとう。主の御許でまた会いましょう」という愛と希望に満ちたメッセージでした。

愛する者と死によって分かたれるという困難の中にあつても、なお希望に目を向けておられるMさんを通して、あらためて主イエス・キリストとの出会い、そして「信仰を与えられて生きる」ということが人生における宝であり慰めであり祝福であることを教えられたように思います。